

一般入試前期B日程

数 学

I

■出題のねらい

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Aの内容から，複素数，図形，確率について，基礎的な計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 比較的よくできていましたが，に虚数解を解答しているものが散見されました。
- (2) 誤答が目立ちました。余弦定理の復習をしておきましょう。
- (3) 誤答が目立ちました。うまく円の方程式を求めることができれば, ともに正答となります。
- (4) は非常に正答率が高かったです。は計算ミスが目立ちました。

II

■出題のねらい

数学Bの内容から，数列，空間におけるベクトルについて，基礎的な事柄を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) は符号を間違えている答案が多く見受けられました。は正答率が極めて低かったです。平面上に位置する点の条件について，よく確認しておきましょう。

III

■出題のねらい

図形と方程式および関数の増減について基本的な事柄を問いました。

■採点講評

- (1) とてもよくできていました。問題文の読み間違いによる符号のミスなどが散見されました。問題文をよく読みましょう。
- (2) とてもよくできていました。
- (3) $t > 0$ を見落としているためか、 t の範囲を間違えている答案がいくつかありました。

IV

■出題のねらい

三角関数を含む関数についての極限值および微積分の基本的な知識を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) $f(x)$ の増減を調べることはよくできていましたが、不等式を示すための根拠として、原点での値 $f(0)$ を考慮せずに、単調性のみから示したとする解答がやや目立ちました。
- (3) よくできていましたが、積分計算の途中でプラス・マイナスを間違えたものがありました。また、対数の値についての計算ミスも少しありました。
- (4) 積分において係数 π が抜けていたものや、 $\frac{1}{\cos^2 x}$ の積分ができていなかったものが目立ちました。

V

■出題のねらい

三角関数と2次関数を題材に、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

〔ア〕はほとんどの人ができていました。〔イ〕も多くの人できていましたが、符号の違い、 α の値に関する条件の見落とし、 π や単位の記述忘れなど些細なミスも散見されました。注意深く丁寧な解答を心がけましょう。〔ウ〕、〔エ〕は相対的に正答率が低かったようですが、多くの人が正解にたどり着いていました。与えられた条件を整理して解答するよう普段から練習を積んでおきましょう。

〔オ〕はよくできていましたが、計算間違いで不正解になっている答案が少なからずありました。〔カ〕も基本的な問題で、よくできていましたが、〔オ〕の解答が影響します。〔キ〕についても基本的な設問ですが、〔ウ〕、〔エ〕の値が影響します。普段から検算を怠らないよう意識しながら練習しておくことが重要です。

VI

■出題のねらい

3次関数の微積分、平行移動に関する基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1) 微分の基本的な問題です。正答する人が多かったです。誤答をした人は基本的な計算ミスでした。
- (2) 極値に関する基本的な問題です。正答する人が多かったです。ただし増減を間違え、極値の判断を誤る人も一部にいました。導き出した式をしっかりと理解し確認をしましょう。
- (3) 平行移動に関する基本的な問題でしたが、誤答する人や複雑な導出過程を試みた人も多かったです。平行移動の考え方をしっかりと確認しましょう。
- (4) (3)が正答できている人は概ねよくできていました。ただし導出の過程での誤りが多く見られました。日頃から正確な式変形、注意深い計算を心がけてください。

一般入試前期B日程

物 理

I

■出題のねらい

万有引力を題材した力学の問題です。万有引力の法則を使いながら、加速度、円運動、位置エネルギー、力学的エネルギーや運動量保存の法則、ケプラーの法則などの力学の基本内容を問い、それらを活用して地球を周回する人工衛星の運動を理解する問題です。数式の導出に加えて、グラフの作成や記述問題もあります。

■採点講評

(1) では万有引力の法則の理解を問いました。全体的によくできていました。問1, 2では分母が2乗ではない誤答が見受けられました。問3のグラフでは高さ $h=R$ のときに $X=1/4$ を通らない誤答がありました。

(2) では万有引力がはたらく等速円運動の理解を問いました。問4, 5はよくできていました。ただし問5ではマイナスがない誤答がありました。問6の正答率は低かったです。問7はよくできていました。この大問では地表における重力加速度の大きさ g を定義していますが、それを用いた誤答も見受けられました。

(3) では人工衛星が加速し、軌道が楕円に変化した場合の運動を理解します。問8の運動量保存の出来はよくありませんでした。人工衛星が減速する誤答がありました。問9は力学的エネルギーを利用して人工衛星の運動の条件を求める問題です。速さの上限が求まるのですが、逆に下限になっている誤答がありました。問10ではケプラーの法則の理解を問いました。文中の説明を利用して解きます。力学的エネルギー保存の法則から v_B を求める解答もありましたが、正答としています。この問いでは理由の記述もあるので論理的な説明が求められます。そこから人工衛星が周回する様子（位置と速度の関係）がイメージできます。最後の , , は数式の展開力が必要です。 は別解として $1-v_B/v_A$ も可能です。 , の正答率は低かったです。最後の二つの式から得られる運動の条件は、問9の条件式と一致するので、法則の一貫性を確認できます。

力学は工学の基本となる分野です。力学では日常の現象を説明する様々な法則を学びます。受験者の皆さんはそれらの暗記に頼るのではなく、問題で与えられた状況に応じて法則を正しく活用する勉強をしてください。

Ⅱ

■出題のねらい

コイルを回転させた交流の発生や変圧器，および発電所や変電所での送電を題材とし，これらに関する電磁気学の基本事項について問いました。これらは教科書にも載っている内容なので，しっかり理解しておいてください。

■採点講評

この問題は，教科書の中では電磁気学の後半に出てくる内容なので，受験者にとっては少し難しかったのかもしれませんが。この大問Ⅱの試験問題のほとんどが教科書に載っている基本的な問題ばかりなので，教科書の内容を理解できていれば高得点も可能だと思います。

問1と□イ，問9は，この問題の中では正答率が高かったです。合格者は，少なくともこの3問は正答できると思われます。特に，□イと問9を含む(3)は物理基礎の教科書に載っている内容です。問8ができていなくても，問9の正答者が多数いたので，送電についての知識をきちんと持っている受験者は多いようです。問8の出来が悪かったのは残念でした。簡単な計算なので，できるようにしておいてください。

(1)についてですが，問2の正答率はあまり高くありませんでした。コイルを貫く磁束が次第に減少しますので，その磁束を増やそうとする向きに誘導電流が流れます。問3はフレミングの左手の法則の問題です。問3から問5までは正答率は約3割で，あまりできていませんでしたが，合格者はこの3題中2題は確実にできるでしょう。コイルの回転と交流の発生については，教科書に書いてある内容なので，きちんと理解しておきましょう。(2)の相互誘導の問題は，この大問Ⅱの中では一番出来がよくなかったです。問6はファラデーの電磁誘導の法則を用いて誘導起電力を求め，グラフ化する問題でしたが，あまりできていませんでした。問7は比較的よくできていました。物理は暗記科目ではありません。論理的に考える力をつけるように学習してください。同時に図やグラフなどを見ながら，物理現象をきちんとイメージできることも重要です。

III

■出題のねらいと解説

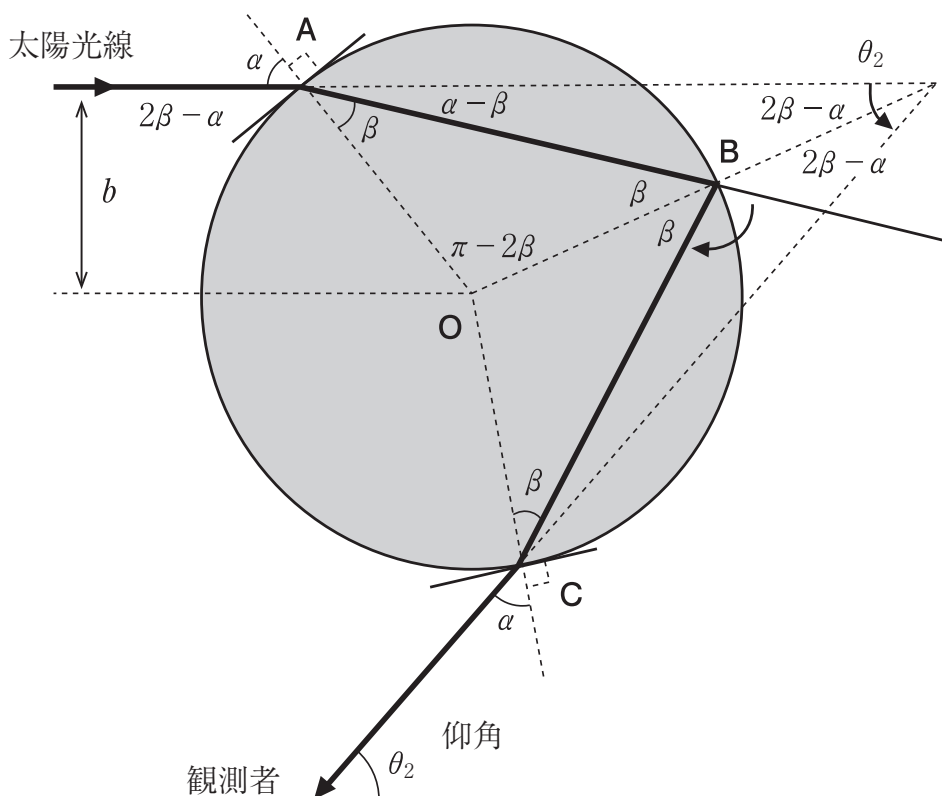
波の分野からの出題で、虹ができる理由を考察しました。屈折の法則と、光が重なりあうと強めあうという知識だけで、2本の虹ができることを説明できます。また、光の波長と屈折率の違いから、虹の色順も考えました。大学入試としてはあまり見かけない題材ですが、それほど難しくないと想定しています。

虹の理論は、17世紀にデカルトが1万本の入射光線について丹念に偏角を計算し、その8500番目から8600番目までの光線がほとんど同一方向に進むことを発見したことから始まっています。当時はまだ微分法が開発されていませんでしたので、たいへんな計算が必要でした。

図3 (a) (b) で、極値をもつのは図3 (b) の方ですので、図1ではなく図2のような一回反射の場合に強い光が水滴から出てくることがわかります。図3 (b) から角度を読むとおよそ42度の方向です。

色の分散は、波長による屈折率の違いが原因です。赤い色は波長が長いこと、(図4から) 波長が長いと屈折率が小さいこと、したがって(イの式から) 赤い色ほど屈折角 β が大きいことがわかります。問題文中にある θ_2 の式から β が大きいほど仰角が大きくなります。よって、主虹の外側は赤色になります。また、主虹と副虹の順は、明るくなる仰角が42度と51度と決まっているので、副虹のほうが高い位置に見えることになります。

θ_2 の導出は次の図を参考にしてください。



色の順や2本目の虹は知識として知っていても、このように説明が論理的にできることを楽しく思いませんか。

ちなみに、図3の作図には、逆三角関数の知識があると簡単です。 $\sin \alpha = b/r$ を $\alpha = \text{Sin}^{-1}(b/r)$ などと記す関数表記です。大学に入学後、すぐに数学でお目にかかるでしょう。

■採点講評

ほとんどの答案が、最後の問題まで手がけていました。

「イ」や「オ」は等価な式であれば正解としています。「キ」は、41度から43度までの答案を正答としました。「キ」には40度という誤答が散見されましたが、図3（b）のグラフをみれば極値を取るのは明らかに40度を超えていますので不正解としました。

問いの虹の色順の理由欄は、色と波長の関係（赤い色ほど波長が長い、あるいは、紫の色ほど波長が短い）に言及できていれば部分点を与えました。さらに図2の場合の仰角と屈折角の関係（屈折角 β が大きければ仰角 θ_2 が大きいなど）に言及できて完答として採点しました。指定された3つの語がないものは完答とはなりません。

物理は、自然現象が少数の法則で説明できることを解明していく学問です。単に公式を暗記して応用するのではなく、考えることを楽しむ姿勢をもってもらいたいと思います。

I

■出題のねらい

気体の化学反応および体積，圧力，物質量の基本的な計算が行えるかを問う問題です。

■採点講評

平易な問題と考え出題しましたが，予想よりも出来はよくありませんでした。

【実験1】，【実験2】

(1) 化学物質の質量から，物質量を計算する問題は非常によくできていました。(4) メタンの完全燃焼の化学反応式を示す問題ですが，正確な化学式をわかっていない答案が多数見受けられました。

ほとんどの計算問題は，圧力を求める問題でした。難しかったのか，あまりできていませんでした。気体の計算問題は，「気体の状態方程式」を使うことが多いのですが，今回の問題では化学反応が起こり，容器内の気体の物質量が変化するので，「気体の状態方程式」は使えません。1つの容器の容積 2.8L は 22.4L の $\frac{1}{8}$ の体積になります。また，コックを開いて，容器をつないだときの容積 5.6L は 22.4L の $\frac{1}{4}$ の体積になります。このことに気がつけば，計算が非常に簡単になり，全て答えが割り切れます。問題文に有効数字二桁で解答するように指示していたにもかかわらず，一桁や三桁の解答も見られました。指示は守るようにしてください。

【実験3】

問題は複雑に見えますが，非常に簡単な計算で解けます。エチレンと水素を同圧で両容器に封入し，コックを開いた場合には圧力は変化しません。エチレンと水素は物質量比 1 対 1 で反応します。両物質の元の物質量は同じであることから，生成するエタンの物質量は，両物質の半分の物質量となります。したがって反応後は元の圧力の半分になります。

【実験4】

アセチレンと水素が反応し，全てのアセチレンが消費されエチレンが生成するには，アセチレンと同物質量の水素が必要です。更に生成したエチレンと水素が完全に反応するには，エチレンと同物質量の水素が必要です。アセチレンの 2 倍量の水素が存在すると，全てエタンになります。しかし，問題文では圧力の比から 1.5 倍量の水素しかないことがわかります。アセチレンと等量分の水素が消費され，全てエチレンになることがわかります。生成したエチレンの半分量の水素が残っていることから，半分のエチレンがエタンになることがわかります。即ち，最終的にエチレンとエタンは同物質量となることがわかります。

II

■出題のねらい

代表的な酸化剤、還元剤とそのはたらきを問う基本的な問題です。

■採点講評

酸化還元に関する基礎的な内容で、難易度は標準からやややさし目でした。酸化還元は、化学を学ぶうえで欠かせない内容で、高校化学で必ず習得してほしい項目の1つです。

- (1) 酸化、還元に関する基本的な用語、反応について問う問題です。比較的よくできていましたが、酸化還元の定義について理解していない答案も見受けられました。正確に理解してください。
- (2) 比較的よくできていました。しかし、マンガンの価数を正しく答えられず、その後の問いでも失点している答案も多かったです。
- (3) ～ (5) 基本的な酸化還元反応の反応式についての問題で、(4)の正答率がやや高かったです。その一方で、反応式の物質収支や電荷のバランスが合っていないという、化学の基本が身についていないことが分かる誤答も多く見られたことが残念でした。
- (6) 酸素原子の酸化数の変化を問う問題で、よくできていました。
- (7) 酸化還元滴定に関する問題ですが、正答率が低かったです。化学における基本的な計算なので、復習をしっかりと行い、知識を定着させてください。

III

■出題のねらい

芳香族化合物について、基礎的な知識を問いました。

■採点講評

〔1〕は4種類の芳香族化合物を分離する操作に関する問題でした。(1) および(2)は化合物の構造式を問う問題でしたが、正答率は予想外に低く、特に4種類の化合物が芳香族化合物であることを認識していない答案が散見されました。今回の4種類の化合物は最も基本的な芳香族化合物ですので、化合物名と構造式をセットで記憶しておいてください。また(2)においては、問題文で「有機化合物の塩」であると明記しているにもかかわらず塩になっていない答案が散見されました。化学反応式を問う問題(3) および操作を問う問題(4)は正答率が高かったです。

〔2〕はC₇の芳香族化合物を題材にした基礎的な知識を問う問題でした。(5) および

(6) の正答率は高かったですが、(7) の正答率は非常に低く、特に名称の誤答が多かったです。また分子式が $\text{C}_7\text{H}_8\text{O}$ であると明記しているにもかかわらず、組成の異なる答案も見受けられました。

以上、いずれも有機化学の基礎知識があれば解ける問題であり、誤答の多くは、不注意に起因すると思われますので、落ち着いて読み返す習慣をつけてください。また全体を通して、化合物の構造にミスが多く、各元素の結合の本数でさえ間違っている答案も見受けられました。自分の書いた答案を見直す習慣もつけてください。

I

■出題のねらい

(1) ではヒトの腎臓の仕組みや働きについて問うています。知識だけでなく計算問題で応用力も試しています。(2) では血糖値恒常性の維持に働くホルモンや器官を問うています。(3) では聴覚と視覚の仕組みについて問うています。(4) ではバイオテクノロジーの基本的手法である PCR 法について問うています。(5) では遺伝の法則について問うています。

■採点講評

難度が高かったようで、正答率は39%でした。以下、正答率の低かった問題について解説します。

(1) の 1) は腎臓の構造と機能についての穴埋め問題です。この中で [6], [8], [9], [10] は正答率が40%を下回っていました。[6] の正解は⑮集合管です。誤答として多かったのが⑨細尿管です。バゾプレシンによる水の再吸収の促進は細尿管ではなく、集合管で起こります。[8] の正解は⑦副腎皮質です。誤答として多かったのが⑬副腎髄質です。[9] の正解は⑨細尿管です。[10] の正解は③ナトリウムイオンです。[9] の誤答として多かったのが⑮集合管、[10] の誤答として多かったのが⑫水です。鉍質コルチコイドは細尿管に作用してナトリウムの再吸収を促進します。腎臓の構造については比較的高い正答率でした。一方で、腎臓に作用するホルモンの名称、その作られる場所、作用する腎臓内の部位、作用の結果起こる反応を整理して記憶することが不足していたようです。2) は再吸収されないイヌリンの血しょう濃度と尿濃度から、1時間あたりの原尿の生成量を計算する問題です。イヌリンの尿濃度は血しょう濃度の120倍です。すなわち原尿が120倍に濃縮されていることになります。1分あたりの尿量が1.0mL なので、1分あたり 120mL の原尿が生成されていることになります。これを1時間あたりに換算すると、③7.2L となります。3) は濃縮率の高い順として最も適当なものを選ぶ問題です。濃縮率とはある物質の尿中濃度/血しょう濃度です。まず、タンパク質はほとんど尿に含まれないので濃縮率は0です。これによりタンパク質が最下位にある選択肢②と⑥が残ります。②と⑥の違いは尿素とナトリウムイオンの順序です。尿素(濃縮率60以上) > ナトリウムイオン(濃縮率1程度) なので②が正解となります。

(2) の 2) は血糖調節に関わるホルモンに関する問題です。正解は①です。正答より多かった誤答が⑦です。副腎皮質と副腎髄質から分泌されるホルモンについて、理解が不十分だったようです。3) は肝臓の機能として誤っているものを選択する問題です。⑧が正解です。セクレチンは十二指腸で合成されます。

(3) は聴覚と視覚に関する問題で、すべて正答率が低かったです。教科書に記載されている内容をしっかり学習していれば答えられるはずです。(4) の 2) は PCR の温度サイクル

を問う問題で、正解は⑤です。誤答として③が多く見られました。③は2番目と3番目の温度が教科書に記載されている温度より低くなっています。3)はPCRで遺伝子領域を 10^6 倍以上に増やす最低のサイクル数を問う問題です。1サイクルで2倍になります。2の何乗がほぼ 10^6 になるかを計算するのは容易なことで、正解は⑤です。誤答として②6が、正答より多かったです。この間違いは 10^6 の6につられたためと考えられます。PCRは1サイクルでDNAを2倍にすることを理解しておく必要があります。

II

■出題のねらい

(1)では一次遷移の基本を考えさせています。それぞれの遷移段階ではどのような植物が現れ、その植物が生理的にどのような性質をもっているかを問うています。(2)は里山が、人間による遷移のコントロールで保全され、その結果として生物多様性を生み出していることについて理解を促す問題です。(3)は暖かさの指数から、日本列島のバイオームについて各々の条件の理解を確かめ、そこに生息する植物の知識を問う問題です。(4)では被子植物の重複受精に関わるやや複雑な有性生殖の過程について問うています。また、その過程で胚乳形成時に見られる重複受精に伴う特殊な遺伝についても触れています。

■採点講評

こちらも難度が高かったようで、正答率が40%でした。以下、正答率の低かった問題について解説します。

(1)は全体的に正答率が高かったです。

(2)の3)は里山の生態系サービスについての記述から誤っているものを選択する問題で、正解は⑤調整サービスとしての天然ガスの採掘です。これは供給サービスに分類されます。

(3)の1)は暖かさの指数に関する穴埋め問題です。このなかで正答率の低かったのが 33 , 34 で、WIが15から45の地域の優占樹種についての問いです。図1から亜寒帯であることがわかります。日本の本州の亜寒帯には砂漠やステップはないので針葉樹林を形成する⑬コメツガ、⑳シラビソが正解です。誤答として多かった⑯ハイマツは針葉樹林を形成しません。4)は大阪市が将来、亜熱帯多雨林に相当する環境に達すると想定した場合の月平均気温の上昇を求める問題です。式1に従って、2010年のWIを求めると147になります。亜熱帯多雨林の最低条件である $WI=180$ との差は33です。これを12で割ると2.75となり、③が正解となります。

(4)の4)では被子植物が受精した後の胚発生に関する問題です。正解は①です。誤答として②、③、④がそれぞれ①より多く選択されていました。②反足細胞は胚乳にはなりません。

③種皮は果皮にはなりません。④受精卵は胚球と胚柄になります。植物の受精とその後の発生は複雑なので、正しく記憶することが必要です。6) は植物の胚発生についての問題です。正解は①です。誤答として②が①より多く選択されていましたが、胚には胚柄は含まれません。8) はイネの胚乳細胞の遺伝子型と表現型についての問題です。正解は④です。誤答として②が正答とほぼ同数選択されていました。胚乳細胞の染色体は $3n$ 型なので②は正しくありません。

一般入試前期B日程

英 語

I

■出題のねらい

映画を話題とする友人同士の会話です。空所補充問題は、文脈を捉えて正しい質問文を選ぶ問題と、適切な主語を選ぶ問題、内容理解を問う問題の3問です。その他は、本文に使われている表現を別の言い方で述べているものを選ぶ問題と、述べられていないものを選ぶ問題となっています。口語表現に慣れておくことと、語彙力が問題を解く鍵でしょう。

■採点講評

正答率が最も低かったのが英問英答の [4] で、選択肢には本文に出てくる語を盛り込んだフレーズが採用されています。会話の流れを掴み切れていない場合、[2]，[3]，[5]でも失点してしまいます。話題になっている女優が過去と現在どのような映画に出演しているのかを正確に押さえながら読む必要のある問題でした。

II

■出題のねらい

問題文は、校長先生から高校の生徒および保護者に宛てた学校規則の変更の周知文書です。どのような問題が発生し、学校としてどのように対処するのかをきちんと押さえて読む必要があるでしょう。また、細かな変更項目は、何が許可されて、何が許可されていないのかを常に整理しながら読み進めることが大切です。空所補充は語彙力を問う問題、適切な関係代名詞節を選ぶ問題となっています。内容読解問題は、質問文にあるキーワードを本文の中に見つけ、該当箇所と照らし合わせて正しいものを選ぶ技術が必要です。

■採点講評

校長先生が保護者に宛てた学校での携帯電話の使用に関する文書であり、現状報告やルールの変更の詳細が書かれています。情報量が多いので、設問で問われている箇所を素早く見つける力や、同意語や言い換え表現が理解できる力が問われる問題でした。なかでも正答率が低かった問題は [6] でした。本文の内容がきちんと理解できていなければ、選択肢の内容だけで答えを出そうとした場合に間違える可能性のある問題も複数あります。選択肢だけで判断せず、落ち着いて本文内容と整合させながら読む必要があるでしょう。

III

■出題のねらい

養蜂家の増加に関する内容です。空所補充問題では、前後の文脈から判断して適切な語句を選ぶ問題と前置詞を問う問題が出題されています。熟語と前置詞の意味が理解できているうえで、文章の流れを掴んでいる必要があります。グラフのタイトルの選択問題は、情報を整理し、数字に注目しながら読めば、正答できるでしょう。内容を問う問題は、選択肢中のキーワードを特定し、本文の該当箇所に戻って正確に読める力が必要です。

■採点講評

11 と 12 の正答率が低かったです。熟語力やグラフや数字を含むデータを説明する際によく出てくる前置詞の使い方を問う問題でした。日頃からグラフや表などを扱った英語の文書を読むのに慣れておくといよいでしょう。また、内容に合わないものを選ぶ問題の正答率が一番低かったです。キーワードを頼りに本文内容を慎重に読む必要があります。また、マークの塗り忘れにも注意しましょう。

IV

■出題のねらい

昨今問題となっている食品ロスの問題に関連し、企業や政府の取り組みについて取り上げた英字新聞記事からの抜粋です。英文を読みながら政府、企業のそれぞれの取り組みと、それに関連した成果を理解しながら読んでいくことが大切です。また、企業や政府の取り組みを取り上げるだけでなく、家庭から出る食品廃棄物について、読者に自覚を促しているところも記事理解の重要な部分です。身近かな話題なのでそれほど理解するのは難しくはありませんが、細部の情報の把握と同時に長文では、全体の流れを把握することも重要です。

■採点講評

一番正答率が低かったのは、数字を含んだ情報を読み取る問題 17 で、正答率は約18%でした。直前の“it”が何を指すのかを理解したうえで考えないと正答できない問題となっていますので、英文の構造をしっかりと理解している必要があります。また、「3分の1ルール」の商慣習を説明する 21 の問題は、本文だけでなく、設問内の英文も正確に読まなければならない問題だったため、難易度は高かったと思います。ほぼ和訳の問題でもあった 24 の正答率が低いところを見ると、英文の構造に従って、正確に文章を読み取る力が足りていないと思われます。大まかに意味を取る訓練も必要ですが、そればかりでは読み損ねる可能性も高くなるので、両方の読み方を訓練しておくといよいでしょう。

V

■出題のねらい

夢の解釈が話題の英文です。下線部だけではなく、全体の論旨の流れも掴んでいないと正確に解答できません。[27] は、「～として」という意味の前置詞の理解を問う問題です。[28] は、仮主語を受ける真主語が不定詞となっていることが理解できているかどうかを尋ねています。[29] は、**make judgments** と **based on** の組み合わせの構文が組み立てられるかどうかを問う問題です。最後の [30] は、全体の論旨の流れを尋ねています。

■採点講評

いずれも50%近い正答率となった問題でした。フロイトの夢分析の話なので馴染みがあったのでしょうか。[27] は **were** か **have** のどちらを残すかですが、人が主語なので受動態にするという意味をなしませんので、**were** が正解です。[28] も **possible** か **able** のどちらを残すかで、主語が仮主語の **it** なので物が主語となり、**able** は使えないということになります。最後の [30] の問題は、全文をきちんと読みながら並び替え問題を解いている人には比較的解答しやすい問題だったと思われます。得点しやすい問題ですので、時間配分を考えて解答できるようにするとよいでしょう。

一般入試前期B日程

国 語

I

出典 『なぜ疑似科学が社会を動かすのか』（石川幹人）PHP新書

超心理学を例にした疑似科学研究を行っている明治大学教授による著書です。具体例も多く示され、全体的に平易に書かれていますので、文意を掴むのはさほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り・読み】（解答番号は①～⑤）

全問正答率は受験者の3%でした。正答が最も少なかったのは「林立」でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑥・⑦）

①は1行前の「社会に応用していく」が、②は直前の「どの程度重ねられてきたか」がヒントです。正答率はそれぞれ64%、33%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑧）

空欄を含む段落を読み、よく考えれば正答はすぐわかるはずです。正答率は76%でした。

問4【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑨）

傍線部Aを含む段落の次の段落をよく読めば正答は導けます。正答率は71%でした。

問5【指示語の内容を考える】（解答番号は⑩）

傍線部Bの直前の文章をよく読めば正答はすぐに導けるはずです。正答率は81%でした。

問6【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑪）

傍線部Cを含む段落の直前2段落を読めば正答は明らかです。正答率は95%でした。

問7【文脈把握・言葉の意味】（解答番号は⑫）

「後づけ」という言葉の意味を知ってさえいれば簡単です。正答率は90%でした。

問8【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑬）

傍線部Eを含む段落を過不足なく押さえれば正答は得られます。正答率は78%でした。

問9【文脈把握・言葉の意味】（解答番号は⑭）

傍線部Fを含む段落の次の段落にある「おのずと周囲の意見に合わせてしまう」、「付和雷同」の意味を押さえれば正答を導くことができます。正答率は48%でした。

問10【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑮）

傍線部Gの2つ後の文をよく読めば正答はすぐに導けます。正答率は82%でした。

問11【文脈を把握し当てはまらないものを選ぶ】（解答番号は⑯）

選択肢③の「十分なデータ収集が必要」は科学的な発想です。正答率は73%でした。

問12【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑰）

傍線部Iを含む段落の直前の段落から正答を導くのは容易です。①を選ぶ誤答が目立ちましたが、①の前半部分は創造説による進化論批判ではありません。正答率は40%でした。

問13【内容を理解して小見出しを選択する】（解答番号は18）

正答率は16%でした。この節で著者が主張しているのは「予言は検証されていないが、科学的知識よりも影響力を持っている」ということです。①を選ぶ誤答が目立ちましたが、終末予言が生きのび続ける理由はこの節全体で重点的に述べられてはいません。

問14【内容合致】（解答番号は19・20）

正答率は⑦が52%、⑧が37%でした。④や⑤を選択している受験者が散見されましたが、④は後半の説明が、⑤は「自ら爆弾などで…先延ばしに」が本文の内容と相違します。

II

出典 猪木武徳「経済学に何ができるか」

問題文は知的財産制度について著者の体験を交えながら意見を述べています。論旨も明快ですから、文意を理解することはそれほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り・読み】（解答番号は21～26）

a 奨励 b 振興 c 処遇 d 許諾 e 商標 f こうでい がそれぞれ正解です。

「拘泥」の読み問題は大半の人が正解していましたが、振興、商標に関しては書けていない人が多く見受けられました。

問2【空欄補充】（解答番号は27）

正解は③です。II と III は問題文の中程にある「排他的（独占的）」と「一定期間」という言葉がヒントです。特に III に「一定期間」が入ることが分かれば、I の⑥と⑨は排除されることはわかるでしょう。

問3【文脈把握による空欄補充】（解答番号は28～30）

正解は、それぞれ④、②、⑧です。IV は1行後の「西洋中世」や「一九世紀に入ると」がヒントで、正解を導くことは容易でしょう。V は同じ段落で筆者がさまざまな形で疑問を投げかけていること、VI は直後の「特に思索による」がそれぞれのヒントになります。

問4【文脈把握による空欄補充】（解答番号は31）

正解は⑥です。空欄直前の「『知的財産権』は～廃止すべき」がヒントです。正答率は32%でした。

問5【漢字画数】（解答番号は32）

正解は①と③です。今年度初めて出された新しいタイプの問題で正答率は25%でした。二つ選ばなければならないのに、一つしか選んでいない人がいました。

問6【文脈把握・理由説明】（解答番号は33）

正解は⑤です。正答率は83%と多くの人が正答を導くことができていました。

問7【文脈把握・慣用句】（解答番号は **34**）

正解は③です。普段から辞書を引き、正確な意味を押さえる習慣をつけましょう。

問8【文脈把握・内容理解】（解答番号は **35**）

正解は④です。同じ段落冒頭の「それにしても～励まないのだろうか」がヒントです。正答率は79%と多くの人が正解を選んでいました。

問9【文脈把握・理由説明】（解答番号は **36**）

正解は⑧です。著者が「知的独占」に懐疑的立場をとっていることを押さえていけば難しくありません。正答率は70%でした。

問10【文脈把握・慣用句】（解答番号は **37**）

正解は⑥です。直後の「『雪だるま』型ではなく」がヒントです。正答率は58%でした。問7と同様、普段から辞書を引き、正確な意味を押さえるようにしましょう。

問11【小見出し選択】（解答番号は **38**）

正解は⑦です。正答率は32%でした。著者は「知的独占」に対してさまざまな観点から自覚的に疑問を投げかけつつも、それが世間で見落とされているとまでは言っていないため、③の「盲点」は不正解になります。

問12【内容合致】（解答番号は **39**）

正解は⑥です。問題文最後の2段落がヒントです。なお、②は「経済理論」ではなく、「経済倫理」と問題文にあり、不正答です。正答率は21%でした。